

「長期的な支援必要」

AMDA緊急報告

岡山

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市櫛津）は、死者、行方不明者1000人以上といわれるフィリピン中部レイテ島の大規模地滑り災害に対する緊急救援の活動報告を2日、岡山市内で行った。派遣チームのメンバーは「避難民の心のケアを含めた長期的な支援が必要」と話していた。

比・レイテ島の地滑り災害

現地で救援活動をした医師藪谷亨さん（三〇）浜松市、調整員木下真絹子さん（三三）岡山市（五）人と、菅波茂代表、初めて緊急救援で協力した金光教平和活動センターの西村美智雄専務理事が出席した。

AMDAは災害発生二日後の二月十九日に日本のNGOとして初めて第一陣が現地入り。金光教平和活動センターの現地スタッフやAMDAインドネシア支部の医師とともに、二月二十七日まで、避難所となっている高校や小学校を巡回し医療活動や粉ミルク、消毒薬、



フィリピンレイテ島での地滑り災害で被災者を診療するAMDAの医師ら（AMDA提供）



食料品など生活支援物資の寄贈などを行った。

ほとんどの避難民が家族を失っており、「自分だけ生き残ってしまった」「眠れない」など、精神的なストレスを訴えていたという。メンバーは「つつ病など本当の精神的な病気はこれから出

るのではないかと分析。今後は災害孤児支援など現地ニーズに沿った支援を継続していく。

募金は郵便振替で口座

番号012501214
0709、口座名AMDA
A. 通信欄に「レイテ島」と明記する。

（斎藤章一朗）